

令和3年度 岐阜市立女子短期大学あり方懇談会における 共学化に関する主な意見

【共学化】

- ・共学化について、女子の高等教育の存在意義は依然としてあると思うが、公立大学が果たすべき役割の中で、女子限定の教育を続けるのは少々、疑問を感じるところもある。
- ・短大のミッションは戦前から女性の高等教育の機会がないときに、高等教育を提供することだったと思う。その役割でスタートしたが、今は志願状況が悪化していることを考えると、役割を終えて今の形を止めることを考えるべきと思う。公立として今の運営を続ける以上、共学化が望ましいと思う。
- ・LGBTの時代で、女性のための短大を公立で運営するのは、理屈が通らないと思うし、共学化は少なくとも行うべきと思う。

【4年制化・共学化】

- ・何のために4年制化、共学化するか、岐阜市立の大学をどうするか考えることが大前提。
- ・岐阜市立大学としての改革は意義や意味が重要であり、まずは短大の基盤となる地域に残る女性の就職先や人の交流を固めるために大学が核となるのか、あるいは今後、女性の方々にもっと活躍してもらえるような人材育成をしたいのか、地域の特に岐阜に残るような学生を育成するために、男子学生も交えた地域連携の教育をしたいのかなど、大きな目途がないと4年制化か共学化がよいのか分らないと思う。
- ・4年制化は共学化ありきで考えいくべきと思う。現状の学科特性では難しいと思うし、リカレント教育や地域特性に合った学校、シンクタンクとしての機能も含め運営していくべきと思う。